

園長室だより (さむたいむず)

令和7年11月28日第7号 大阪市立桃園幼稚園

季節が進み、本格的な寒さがやってきました。それでも子どもたちは、戸外で元気に遊んでいます。また、保育室では、素材でつくったり、絵の具で絵をかいたり存分に表現することを楽しんでいます。

さて、お家の方が持ってきてくださった素材を用いて、自分のイメージしたものを自由に形にし、時には壊し、また形にして、さらにイメージを広げ、製作を繰り返して遊んでいます。まさにそれが、「造形遊び」です。試行錯誤を繰り返し、時には接着に苦勞し、やっと形になったのに壊れてしまい、うまくいかず、でもチャレンジしてつくっていく。やっとの思いで、できたときに「できた!」「楽しい!」という思いを抱きます。その「できた!」という気持ちを大切に、幼稚園では、子どもたちの自由な表現を支えていきます。完成したものに、「上手」「下手」というものはなく、つくる過程そのものを楽しむことが大切なのです。作品展で子どもたちの作品をじっくり見てください。セロテープや、布テープを切ることに苦勞したことなど、作品を見ていただくと、過程がわかると思います。

また、絵画も、自分の経験したこと、見たことを表現しています。でも、幼稚園では、経験画や写生をかくのではなく、見たこと、経験したことをさらに自分のイメージを広げ、絵で表現します。大阪城を見て、大阪城をかくのではなく、肌で感じた印象や子どもの目線で見た大阪城をかいています。感じたことを絵にするという、子どもにしかできないことをしているのです。動物園に行くと、ペンギンをかいても、白と黒のペンギンをかこうとするのは、大人の固い頭であって、子どもたちの描くペンギンは、ピンクでもいいのです。感じたこと、イメージしたものを形で表現することは自由であって、できたものではなく、その過程が大切と捉えています。

日々の生活の中で、“感じる心”を養い、感じたことをそのまま表現し、認めてもらうことで、自分の自由な発想の表現に自信をもちます。作品展で作品や絵画をご覧になり、活動の過程に着目していただき、子どもたちのありのままの表現を受け止めてあげてください。発達段階は様々です。比較するのではなく、その時の子どもの感じた表現をそのまま受け止め、認めてあげてください。



天王寺動物園

天王寺動物園ではたくさん歩き、たくさんの動物に会いました。友達と動物の様子やしぐさに見入って「遊んでるやん!」「寝てるのかなあ」など会話も楽しんでいます。とても暖かい遠足日和でした。

たくさん歩いて、美味しいおにぎりを食べて、また動物を見て…。暖かい日差しの中、動物のふんわり香るにおいも感じ、子どもたちは何を感じたでしょう…。



人形劇

人形劇「紙ふうせん」の方々が子どもたちに人形劇を見せてくれました。生演奏の歌があったり、人形劇があったり、長堀にじいろ保育園の子どもたちもご招待してたくさんの方々が見学する中、とても楽しい1日でした。



大阪城

秋の自然を感じながら、大阪城へ歩いて出かけました。片道20分ほどの距離を、子どもたちは本当によく歩いていました。しっかり手をつないで歩けるようになっていく姿を見て、大きな成長を感じました。天守閣に登ったり、どんぐりを拾ったり、秋の自然を感じながら楽しんできました。(写真左)大きな一枚岩をみんなで押しています。この一枚岩はなぜ、ここに置かれたのか、どうやって運んだのかなど、小学校以降の学習で学びます。その時にこのように幼稚園の園外保育で直接体験したことが、ぼんやりと思い出され、経験と机上の学びが繋がったとき、深い知識となって、落とし込むことになります。幼稚園では、直接触って感じ、経験して心と体で受け止める直接体験を大切にしています。そして、感性を育てています。



表現活動

芋堀りや大阪城公園などを経験し、子どもたちはかくことの表現を楽しんでいます。もちろんその表現も自由です。例えば、五重塔が7階まであっていいですし、首のないキリンがあってもいいのです。実際、子どもたちは芋をかきながら、「ツルがグルグルのびてるよ」と、経験したことから、さらにイメージを広げ、自由に楽しんでかいていました。また、友達とかいていくうちに、影響を受け、さらにイメージを広げる場合もあります。

子どもたちの自由な表現を認め、支えられることで、“ありのままの自分でいい”と自分自身に自信をもっていきます。小学校に進学したら、決められた課題の絵画をかいたり、大阪城の写生をします。この時期でしか経験できない自由な発想の絵は宝物です。



自分のつくりたいものを黙々とつくっています。



時には友達と一緒に遊びながらつくったりします。

展示について

子どもたちの絵画や作品を展示するため、先生たちは、一番子どもたちの作品が輝く方法で展示をします。絵画には台紙(絵にあった色を考え、絵の周りに額をつける紙)をつけます。その台紙の色を選ぶのも、先生たちの感性です。“この絵には、赤の台紙かな?”“台紙は黒の方が絵は映えるな”など、一枚一枚考えて台紙をつけていきます。

作品も同じです。作品が一番輝けるように考えます。飾り方、置き方なども含めて、作品展の見どころです。

また、今年度は、養護教諭のクイズもぜひ参加していただきたいです。子どもたちと一緒に考えていただき、正解してください! 5問中、3問正解すると、養護教諭から、素敵な?養護教諭らしい?プレゼントがあります!?